

令和6年 第872回小浜市教育委員会定例会 会議録

開催日時	令和6年10月18日(金)		開会 15:30 閉会 16:30		
開催場所	市庁舎4階401会議室				
出席委員	窪田教育長	上田職務代理者	村上委員	桂田委員	坂下委員
欠席委員					
事務局	谷教育部長	畑田教育部次長	日比野生涯学習 スポーツ課長	松宮主幹	井上課長補佐
	赤崎課長補佐	安田企画主査	大橋指導主事		
傍聴者					
会 議				会議の結果	
<p>委員会開会</p> <p>(教育長) 宣言および開会あいさつ</p> <p>昨今の気候変動により、全国的に学校や体育施設における空調設備の整備が課題になっている。本市においても、体育施設における空調設備の整備について先月の総合教育会議で教育委員の皆様と議論していただいたところであるが、来週には市の政策会議での協議を予定しており、何とか良い方向に進むよう努力を重ねているところである。</p> <p>先日、福井県市町教育長研修会において、県内市町がかかえている課題のうち、「教育の質の向上」「教員の人材確保」について県教育長を交えて懇談を行った。後ほど詳しく報告させていただく。</p> <p>10月7日の教育家庭新聞に、デジタル学習基盤に係る現状と課題について掲載されている。このことについても、後ほど報告させていただく。</p> <p>今年度から、新たな取組みとして教育委員会研修を実施させていただく。今年度は学校DXの先進校である富山県の芝園小学校・芝園中学校への視察研修を予定している。芝園小学校の前校長には、国のリーディングDXスクール事業の指定校である雲浜小学校において、外部アドバイザーを務めていただいているところである。有意義な研修にしてまいりたいと考えており、教育委員の皆様の参加をお願いする。</p>					

1 会議録の承認について

第871回教育委員会定例会会議録 《承認》

会議録署名人2名の選任

第872回教育委員会定例会会議録署名委員選任 《上田職務代理者、桂田委員》

2 報 告

- ・報告第15号 諸般の報告 令和6年9月20日～令和6年10月17日
行事予定 令和6年10月18日～令和6年11月30日 《承認》

3 教育長報告

- ・福井県市町教育長研修会報告

「教育の質の向上」「教員の人材確保」を議題として県教育長と懇談した。ご存知の通り、教員採用試験の倍率はここ近年大きく低下しており、教員を目指す学生が減少している。若い世代の働き方についての価値観・概念が大きく様変わりしている中で、教員の過重労働について報道されていることによる影響もあると思われる。そういった状況の中、教員の質の維持向上という課題が生じている状況である。またベテランの教員にとって大きな課題となっているのが、DXにどう対応していくかということである。50代以降も自己変革をして現在の教育に対応できる資質能力を積み上げていく必要があり、役職定年により管理職を解かれた教員にもICTを活用して教科指導を行う資質能力が求められている。これらのことを踏まえ、若手教員の資質の向上の課題と年配の教員の自己向上の意欲をどう維持していくかといった課題について議論された。

また、教員を目指す人が減り、講師や産休・育休代替教員の確保が困難になってきている。小浜市においては、現在は何とか代替教員を確保できているが、県内の他の市町においては代替教員を確保できないといった事態も生じている。そういった現状を踏まえて、教員の人材確保について意見交換がなされた。その中で、特に教員の働き方改革については、合理化・効率化が可能な業務については、不合理なものは徹底的に改めて、どんどん合理化を進めていくべきであるが、一方で、教育に携わる者の職務内容には合理・不合理の枠組とは別に、非合理の領域に属するも

のも少なからずあり、そもそも非合理の領域に属するものを無理やり合理化しようとする、かえっておかしくなるといったことが生じる懸念がある。今後、働き方改革をさらに進めていくにあたっては、すべてを合理・不合理の枠組だけで進めていかないということも大切ではないか。そういった点を懇談会の中で発言させていただいた。大変有意義な議論、意見交換ができた研修会であった。

・デジタル学習基盤に係る現状と課題について

10月7日の教育家庭新聞によると、デジタル学習特別委員会が9月30日に、これからの学びの前提とされる「学習基盤」についてのこれまでの議論を「デジタル学習基盤に係る現状と課題の整理（案）」にまとめ、さらに追加・留意したい点について討議がなされた。今後、この討論を反映したものが中教審に報告されるということである。

児童生徒に配備された端末の活用にあたっては、クラウド環境の整備が不可欠である。また、文科省は全国学力学習状況調査を来年度から段階的にC B T（Computer Based Testing）による実施に移行していくこととしている。C B Tはこれまでのように答案用紙に回答を書くテストではなく、コンピュータで問題を読んでコンピュータ上に回答を書き込むテストであり、C B Tの実施にあたっては全国的に通信ネットワーク環境の整備が課題となっている。通信ネットワークが貧弱であれば、大勢が一斉に端末を使用した時にハングアップしてしまうため、端末がストレスなく動く通信ネットワーク環境の整備が必要である。加えて、今後は学習者用のデジタル教科書が導入され、ドリルや各種プリント類も紙媒体のものからデジタル教材に代わっていく。デジタルの利点は、即時に集計が行えることであり、これまで教員が何時間もかけて採点していたものが、誰がどの問題を間違えているか、全体の何割ぐらいの生徒が正解できているのかといったことが直ぐに判別できるソフトウェアがどんどん開発されている。今後は、子どもたちがストレスなく端末を使うことのできる回線ネットワーク環境が整備されているか、また個別最適な学び、協働的な学びを支えるソフトウェアが導入されているか、といったことが課題になってくる。また、子どもの学習教材は基本的に保護者負担であるが、紙ベースの教材を使用しながらデジタル教材を導入することは保護者負担を増やすことになり、教員の考え方や発想の転換が必要である。

いずれにせよ、一人一台端末、通信ネットワーク、周辺機器、デジタル教科書・教材、学習支

援ソフトウェアなどのトータル的なデジタル学習基盤が、これからの子どもたちの学習基盤になっていくことは間違いない。教育委員会としては、その整備をどのように進めていくかということが一番重要な課題であり、先日の総合教育会議でも協議していただいたところであるが、教育委員会も学校も何を大事にしていかなければならないのかという点で大変参考になる記事であったので、紹介させていただいた。

4 その他

なし

委員会閉会 (教育長) 宣言

この会議録が真正であることを確認して署名する。

小浜市教育委員会議事録署名委員

委員 上田 俊彦 教育長職務代理者

委員 桂田 理津子 教育委員